

いて」,2023年1月30日.

- 西日本旅客鉄道株式会社/JR おでかけネット「La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア)」  
([https://www.jr-odekake.net/railroad/kankoutrain/area\\_okayama/lamalledebois/](https://www.jr-odekake.net/railroad/kankoutrain/area_okayama/lamalledebois/)) .
- 西日本旅客鉄道株式会社/ふるさとおこしプロジェクト「La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア)」  
([https://www.jr-furusato.jp/train/train\\_la-malle-de-bois/](https://www.jr-furusato.jp/train/train_la-malle-de-bois/)) .
- 乗りものニュース「旅行かばんがモチーフ 岡山の観光列車『La Malle de Bois』」  
(<https://trafficnews.jp/post/47001/2>) 2015年12月18日.



(快速マリンライナーと)

### 3.DL やまぐち号

#### 1. はじめに

本会では、2023年8月17日から21日にかけて夏旅行が行われた。昨今のコロナ禍により、本会での夏旅行は3年間ほど行われておらず、筆者にとっても初めての夏旅行であった。

本稿では3日目に乗車したDL やまぐち号について、その運行形態や車両の特徴や客層について概観したした上で、乗車していて気づいた点や乗車した感想について述べていきたいと思う。



DL やまぐち号(新山口駅にて)

## 2. 運行の形態

筆者が乗車した2023年8月19日時点での運行形態について紹介する。「SL やまぐち号」の名称の方が聞き馴染みがあるという方も多いと思われるが、筆者が乗車した時点においてはSL やまぐち号の牽引機であるC57 1号機とD51 200号機の両方とも不具合で運用には入っていなかったためSL やまぐち号の運転はなく、DD51 または DE10 の牽引によるDL やまぐち号として運転されている状況であった。

DL やまぐち号は35系客車をDD51 単機またはDE10 重連のいずれかで牽引する形で運行されており、いずれの牽引機で運行されるかは運行日によって異なる。また、運行日は基本的に土休日であるが、土休日であっても運行されない場合もあるため乗車するには公式HPの運行カレンダーを参照されたい。運行区間は山口線の新山口～津和野であり、停車駅は湯田温泉、山口、仁保、篠目、長門峡、地福、鍋倉、徳佐となっている。特に仁保と地福では10分ほどの停車時間が設定されているため、列車から降りて写真撮影をすることができる。ただし上り新山口行は、仁保と地福には停車しないので注意されたい。運行日には当該区間を一往復するダイヤが設定されており、筆者が乗車した時点では下り津和野行が新山口10時50分発、津和野12時58分着に、上り新山口行が津和野15時54分発、新山口17時38分着に設定されており、約2時間の旅程となっている。



列車を降りて写真撮影(仁保駅にて)  
同駅では跨線橋に登り上からの撮影ができる



列車を降りて写真撮影(地福駅にて)  
同駅では構内踏切に降り真正面から撮影できる

## 3. 車両の特徴

ここではこのDL やまぐち号で用いられている客車を持つ特徴について紹介する。この列車で用いられているのは新潟トランス製造の35系客車であり、この35系客車は2018年度のブルーリボン賞を受賞している。<sup>1</sup>下図の通り、5両編成となっており1号車はグリーン車となっている。

まず、外観について見てみると、車両は旧型客車にも使用された国鉄ぶどう色2号によって全体がカラーリングされており<sup>2</sup>、1号車のオロテ-35のみ白い1本の帯の塗装がある。また、「新山口↔津和野」や「指定席」などが書かれた銘板が側面にはめ込まれているのも客車らしいものであるといえる。

また、内装についてもさまざまな工夫がなされている。車内に入ってまず目に飛び込んでくるのは旧

<sup>1</sup> SL やまぐち号公式HP

<sup>2</sup> <https://response.jp/article/2017/06/04/295701.html>



型客車を再現した木製のボックス席と丸形の照明である。これらの席と照明によって、車内に入るとあたかも客車列車全盛の時代にタイムスリップしたかのような印象を乗客にあたえ、この列車での旅を特別なものとして楽しむことができるようになっている。しかし、レトロな内装だけがこの客車の特徴ではない。さまざまな属性を持つ乗客が各々快適な旅を楽しめるような工夫も随所になされている。まず、車両のデッキ部分には大きな荷物棚があり、ベビーカーを使う家族連れや大きな荷物を持って移動する旅行客なども利用しやすいようになっている。また、客車内に設置されているトイレは多機能トイレであり、高齢者や障害のある方の利用にも配慮がなされている。車椅子対応ドアも同様の配慮のものといえよう。また、3号車には蒸気機関車の運転シミュレーターや石炭をくべるシミュレーションゲームがあり子供が楽しめるアクティビティも備えられている。3号車には他にも蒸気機関車の構造の説明やSLやまぐち号の歴史などの展示スペースやグッズ販売所が設けられており<sup>1</sup>、大人も楽しめる工夫がなされている。

このように35系客車は旧型客車をイメージした外装・内装を有しつつも、現代の技術を用いて年齢・属性を問わず旅を楽しんでもらえるような工夫が随所に施された客車であるといえる。



オロテ-35 側面の白帯が特徴的



丸形の照明カバーや網棚が旧型客車を想起させる

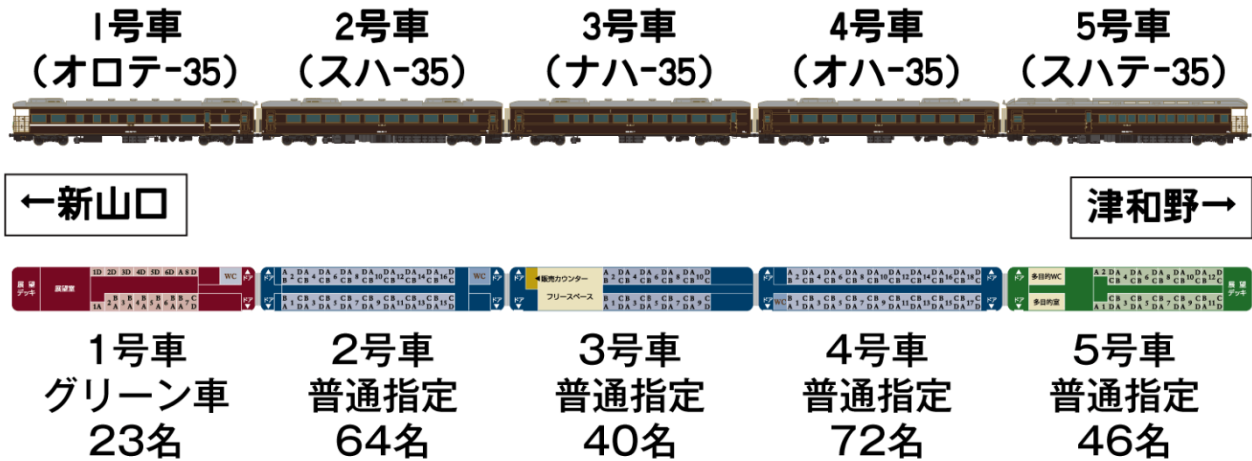


石炭をくべるシミュレーションゲーム

<sup>1</sup> <https://www.c571.jp/sinfo/passenger.html>



さまざまな鉄道グッズも展示されている



35系客車編成図(SL やまぐち号公式HPより)

#### 4. 客層

ここでは、筆者が乗車した際に観察された乗客の客層について述べていきたいと思う。特に目についたのは子供連れの家族が多かったという点である。お盆の期間ということもあり、家族で一つのボックス席をとり風景を見たり車内を見て回ったりする親子の姿が多く見られた。また、列車に乗ったり、列車を撮ることを目的に乗車している中年の男性グループや夫婦や友人同士で乗っている高齢者のグループも見られた。このような多様な客層の背景には前述のような現代の技術を多数導入した客車の設備がそれを可能にしているといえる。

## 5. まとめ

DL やまぐち号はディーゼル機関車が客車を牽引する列車という運行形態そのものが日本では珍しいものといえる。また、35系客車は旧型客車をイメージした外観や内装で特別感を演出し、それと同時に年齢や属性に関係なく、さまざまな人が列車を楽しめるような設備を備えている。したがって、DL やまぐち号は旧型客車での旅というテーマをより多くの人々に提供できるよう工夫された列車であるといえるだろう。

(3年 細川)

### 参考資料：

SL やまぐち号公式 HP <https://www.c571.jp/index.html>

## 4.SL パレオエクスプレス

SL パレオエクスプレスは秩父鉄道が1988年から運行している観光列車で、熊谷駅から秩父鉄道の終着駅である三峰口駅までを結んでいる。今回は研究の一環として実際にSL パレオエクスプレスに全区間で乗車した。

SL 発車時刻の数十分前から、三峰口駅は多くの乗客で賑わっていた。三峰口駅と併設されている転車台公園では、給油や給水などの整備作業や蒸気機関車の向きを回転させる転車作業を見学することができるためである。特に転車作業は人気で多くの鉄道ファンがカメラを構えていた。SLの人気の底堅さを感じられる。転車作業が終了して蒸気機関車が客車に連結されると、大半の乗客は転車台公園や線路脇から三峰口駅へと引き上げて行った。駅のホーム上でも、雨にも関わらず多くの乗客が記念撮影を楽しんでいた。客車として使用されているのは旧国鉄の12系である。約半世紀前から製造されている12系客車であるが、パレオエクスプレスで使用されている客車は綺麗に整備されており、古さはあまり感じられない。外装に合わせて赤を基調とした内装となっており、温かみのある落ち着いた雰囲気となっている。座席は全てボックスシートで、窓側にのみ簡易的なテーブルがついており、窓側の座席が確保できないと少し不便かもしれない。また、国鉄時代から変わらず全ての車両で窓を開けることができ、蒸気機関車の煙の匂いや風を感じることができる。パレオエクスプレスは全席指定となっており、自由席の設定はない。休日ということもあり乗車率は高く、ほとんどの座席が埋まっている状態で車内はとても賑やかであった。三峰口を発車したパレオエクスプレスは普通列車と比べてもかなり遅い速度で走行した。普通列車が1時間40分ほどで走行する区間をパレオエクスプレスはおよそ2時間半で走破する。その分、武甲山や荒川の風光明媚な景色をじっくりと楽しむことができると言える。車内では秩父市出身の落語家林家たい平師匠によるアナウンスが流れており、車窓の見どころや地域に関する情報などの案内がなされていた。また、パレオエクスプレスは車内販売が非常に充実している。乗車中何度も車内販売担当の乗務員の方が回ってきて、一度買い逃してしまってもすぐに買うチャンスがあった。販売商品のラインナップも豊富で、パンやジェラート、お菓子などの食べ物や、ジュースやアルコール類などの飲み物に加え、SLグッズなどのお土産品も取り揃えられていた。終点の熊谷駅でも多くの乗客が折り返しの作業を見るためにホーム上に残っており、パレオエクスプレスが車庫に向けて発車するのを見送った。